

資料3 西の湖の漁場環境モニタリング結果

森田 尚・大山明彦・佐野聡哉・菅原和宏

1. 目的

西の湖では 2006 年にオオカナダモが減少してから真珠漁場としての復活が期待されている。また、ニゴロブナやホンモロコの増殖場としても重要であるため、水草の繁茂状況を監視するとともに、貝類や魚類の生息環境の現状を把握するのを目的に調査した。

2. 方法

2023 年 4 月 18 日、5 月 22 日、6 月 19 日、7 月 18 日、8 月 7 日、9 月 19 日、10 月 23 日、11 月 22 日、12 月 19 日、2024 年 1 月 22 日、2 月 14 日、3 月 19 日に西の湖内の 18 定点(図 1)で幅 20cm の鋤簾を 2m 掻いて採取された水草と貝類の湿重量を計測した。また、3 定点(湾奥部 st. 1、湖央部 st. 8、流出部 st. 11)で水質を、1 定点(湖央部 st. 8)で動物プランクトン(Nxxx25 ネットで表層水 20 リットルを濾過)を調査した。2023 年 11 月 8 日～9 日には、図 1 の魚類採捕調査地点 1 か所において調査用小型定置網 1 統を一昼夜設置し、捕獲された魚介類の種類と数、重量を計測した。2023 年 12 月 19 日の調査時には、3 定点(湾奥部 st. 1、湖央部 st. 8、流出部 st. 11)で底質の柱状試料をアクリルパイプ(内径 42mm)で採取し、底質中の灼熱減量、全硫化物量を測定した。2023 年 10 月 23 日と 2024 年 2 月 14

日および 3 月 19 日の調査中には、電磁流向流速計(JFE アドバンテック AEM-USB)を湖央部 st. 8 の湖底に約 1 時間設置し、流速を測定した。

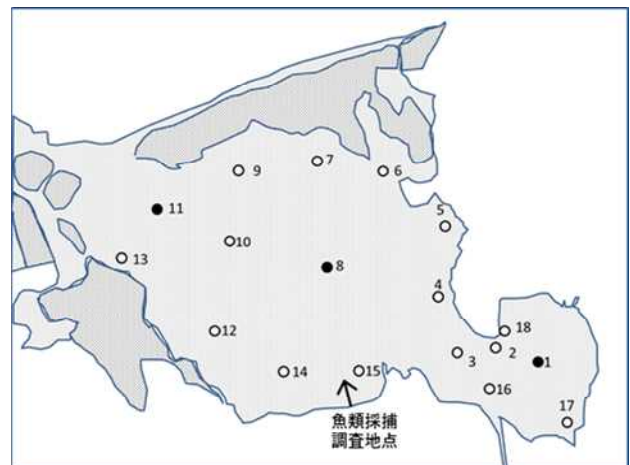


図 1 調査地点

3. 結果

表 1 水草(沈水植物)と貝類

表 2 水質

表 3 動物プランクトン

表 4 魚類

表 5 底質

表 6 流速